

## 病院報告の概況

### (1) 在院患者延数

令和4年中の京都市内の病院における在院患者延数は5,142,690人で、前年に比べ86,110人（1.6%）減少した。年次推移をみると、昭和45年以降増加を続けていた在院患者延数は、平成元年をピークに減少傾向に転じ、ここ数年は減少を繰り返している。なお、全国では前年より1.5%の減少となっている。

病床の種類別では、精神病床が0.2%微増、結核病床が69.4%、その他の病床が2.8%減少する一方、新型コロナウイルス感染症の影響により感染症病床は104.9%増加した（図1-1）（図1-2）。

※ 新型コロナウイルス感染症患者については、感染症病床以外の病床に入院していたとしても、「感染症病床」の患者として計上している。（令和2年9月4日厚生労働省事務連絡）

図1-1 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移  
(精神、結核、その他)

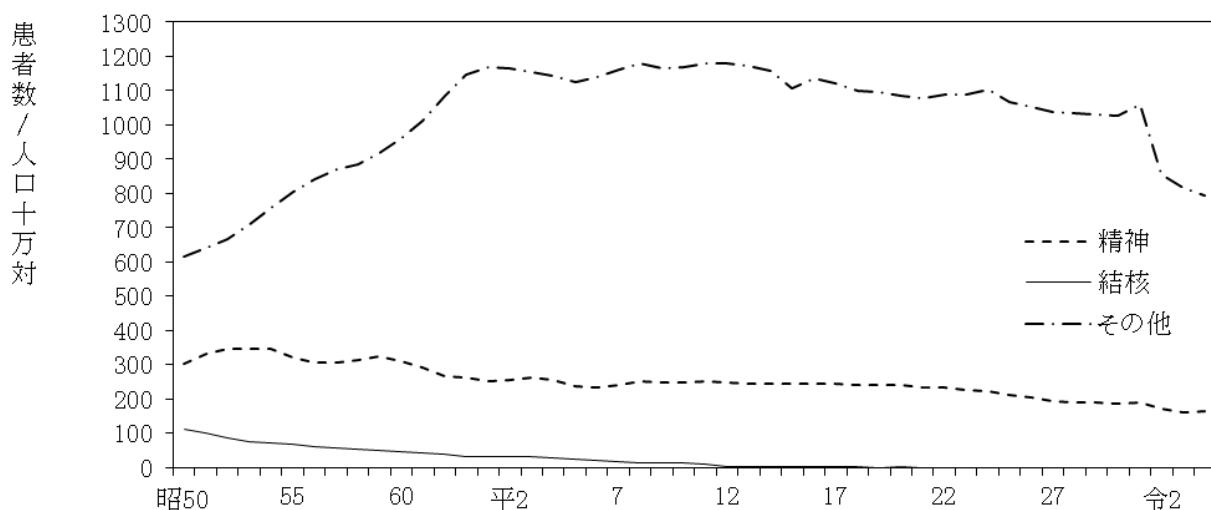
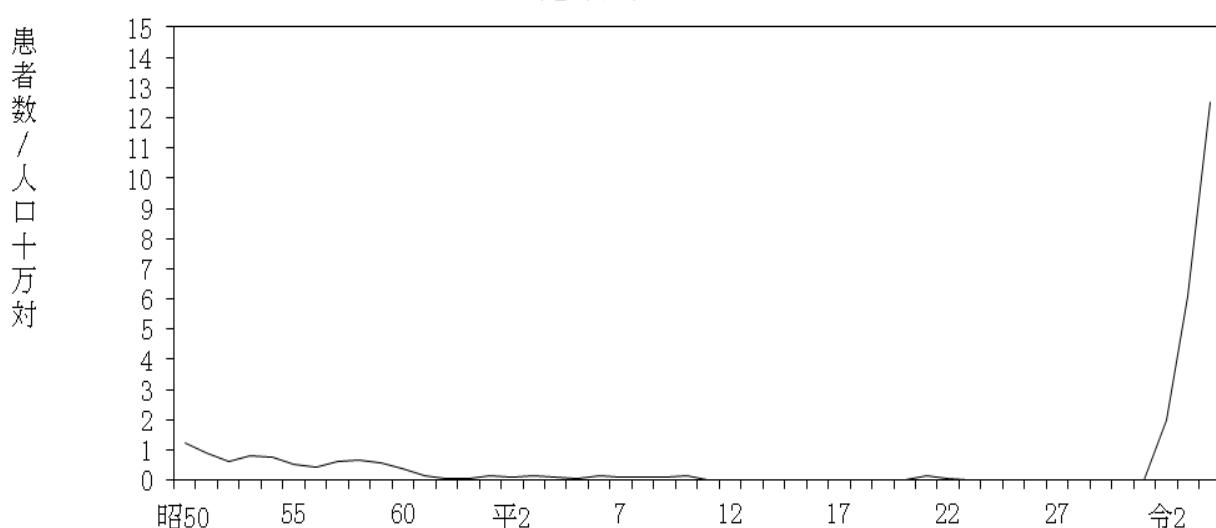


図1-2 一日平均在院患者数(人口10万対)の年次推移  
(感染症)



## (2) 新入院・退院患者数

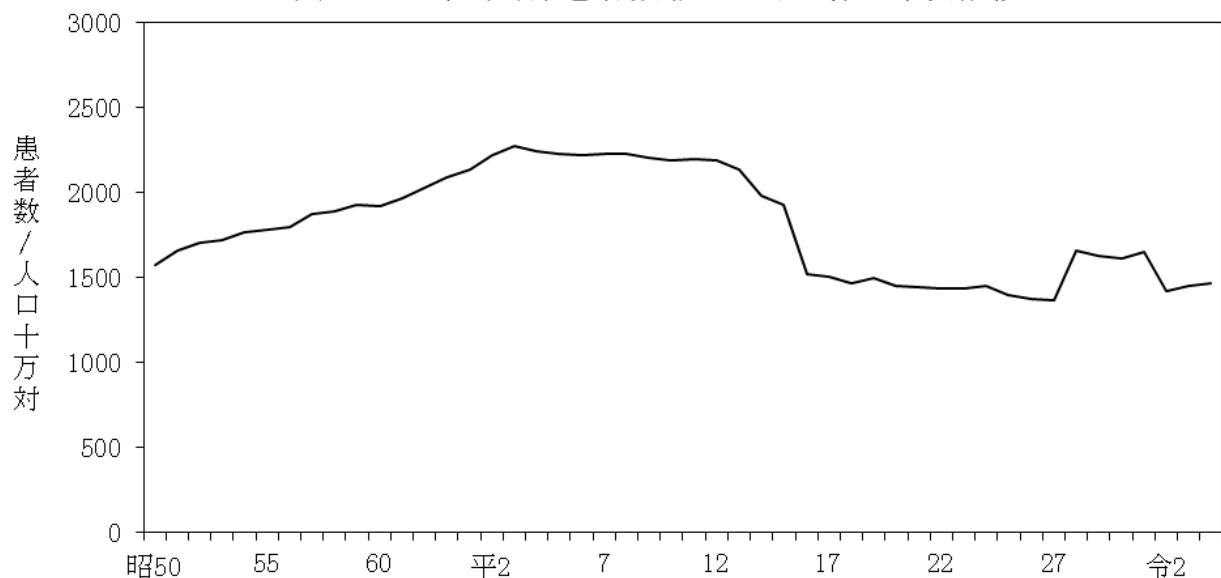
令和4年中の京都市内の病院における新入院患者数は214,664人で、前年より1.4%減少（全国0.9%減少）した。また、退院患者数は215,004人で、前年より1.3%減少（全国0.9%減少）した。

一日平均では、新入院患者数が588人、退院患者数が589人であった。

## (3) 外来患者数

令和4年中の京都市内の病院における外来患者数は6,305,855人（一日平均17,276人）で、前年より0.5%増加（全国1.2%増加）している（図2）。

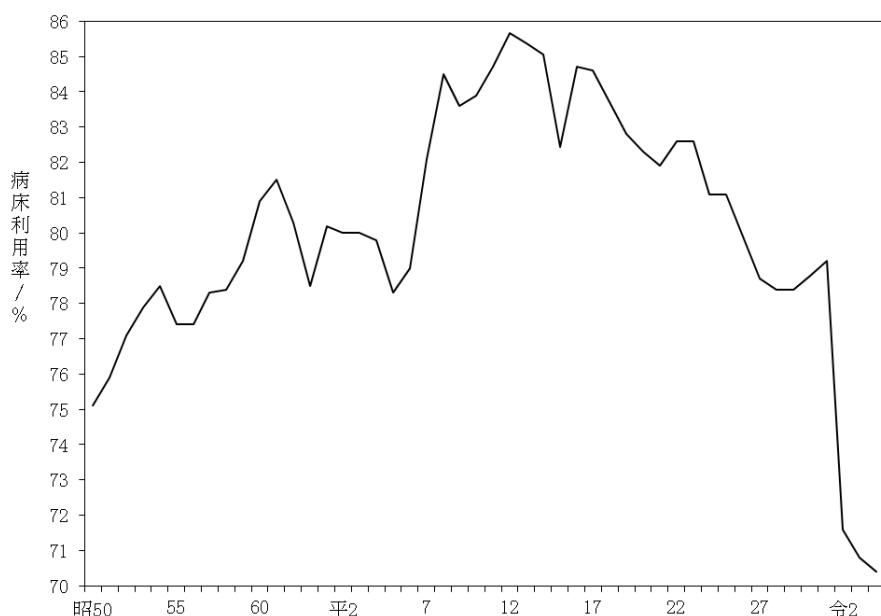
図2 一日平均外来患者数(人口10万対)の年次推移



## (4) 病床利用率

令和4年中の京都市内の病院における病床利用率は71.7%（全国75.3%）で、前年と同率（全国0.8ポイント減少）であった（図3）。

図3 病床利用率の年次推移



病床の種類別では、前年に比べて精神病床は6.1ポイント増加し、結核病床は0.5ポイント減少し、感染症病床は1159.8ポイント増加し、その他の病床は1.8ポイント減少した（図4－1）（図4－2）。

図4－1 病床種類別病床利用率の年次推移  
(精神病床、結核病床、その他病床)

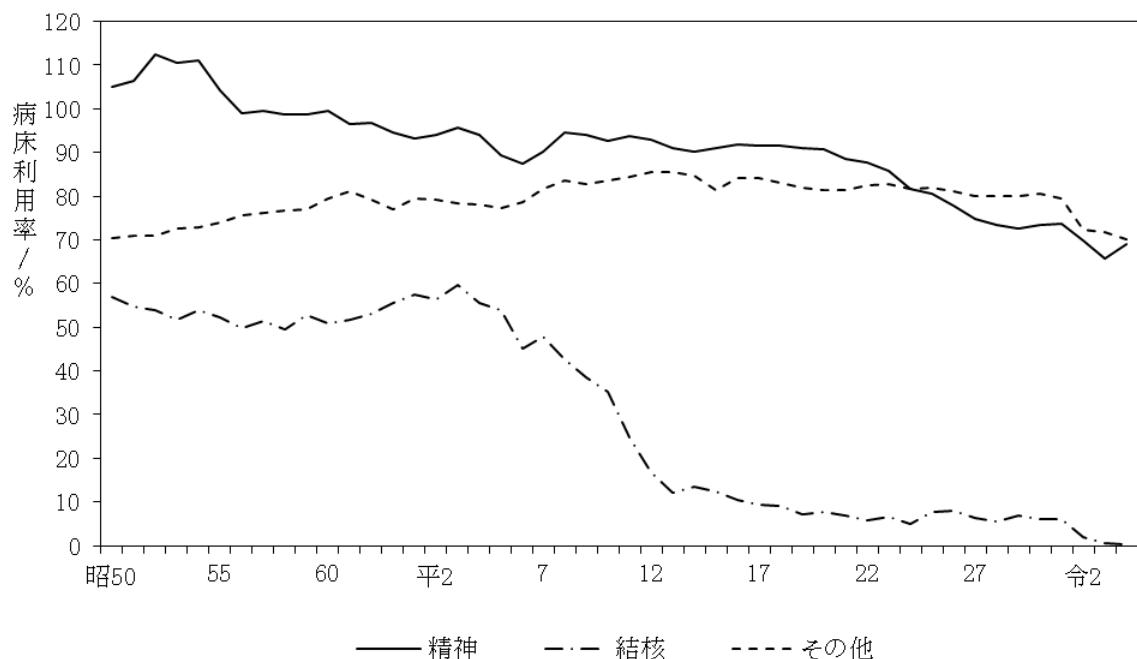
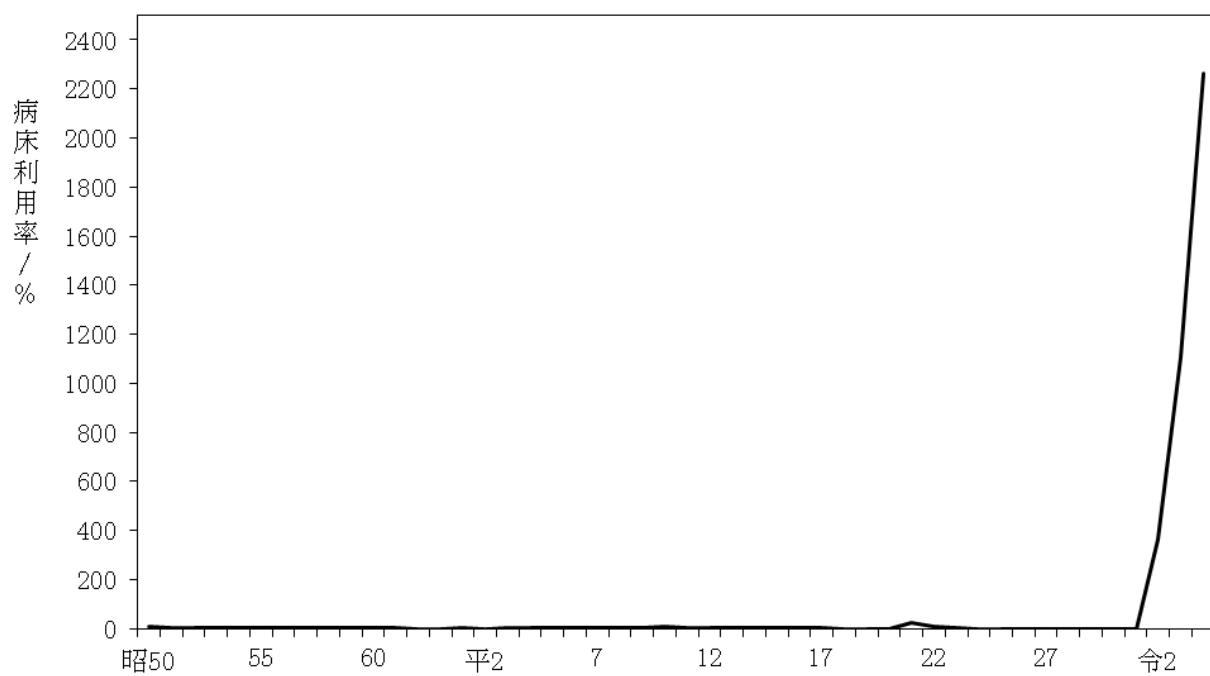


図4－2 病床種類別病床利用率の年次推移(感染症病床)



## (5) 平均在院日数

令和4年中の京都市内の病院における平均在院日数は23.9日（全国27.3日）で、前年より0.1日短くなっている。年次推移では、平成元年までは長くなる傾向にあったが、平成2年以降は、短くなる傾向にある。（図5）。

病床の種類別では、精神病床が306.0日（全国276.7日）、結核病床が1.8日（全国44.5日）、感染症病床が12.3日（全国10.5日）となっている（図6）。

図5 平均在院日数の年次推移

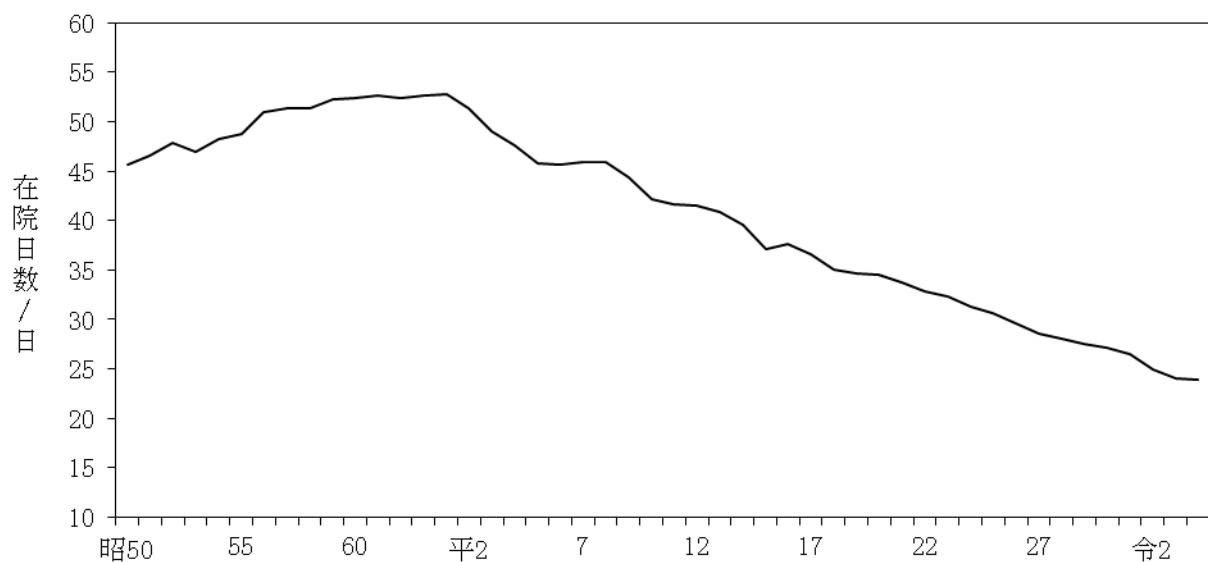


図6 病床種類別平均在院日数の年次推移

